

「東京の夕暮れ (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

夕暮れの空というと、どうしても太陽が沈む方位・・・西側の空に注目しがちである。しかし、その反対側・・・東側も是非見てほしい。薄桃色の「ビーナスの帯」と、その下にある藍色の帯が見えるはずである。この藍色の帯は「地球影」と呼ばれている。



「ビルの谷間のビーナスの帯と地球影」小学校窓より

「地球影 (ちきゅうえい)」は、ごく簡単に言えば、大気に投影された、地球そのものの影である。日没後に東の地平線に見える地球影の場合、「遠くの夜を先取りして見ている」と表現できる。当然、地平線近くまで見渡せる場所が観測適地だが、東京ではそういう場所はあまりない。ビルの谷間に見える程度だ。



左下の図は「明け方の地球影」を示しているが、夕方の地球影も、仕組みは同じである。私は、東京でもいい地球影の写真がとれるはずだ・・・と思い、快晴の夕暮れに、小学校の屋上に撮影に行った。



驚いたことに、屋上には「先客」がいた。写真好きの算数の教諭だ。彼は私よりずっといいカメラを持っている。やはり「地球影」を撮りにきたという。屋上で撮ったのが上の写真だが、本当にビルの谷間にしか見えず、満足できなかった。



私は(かなり危険な目にあいながら)時計台までよじ登って撮影に挑んだ。さすがにここまで高い場所に来ると、ビーナスバンドも地球影も良く見える。しかし、前の写真からわずか5分しかたっていないのに、もう色あせている。ビーナスバンドも、地球影も、日没後ほんのわずかな時間しか、見ることができないのだ。この写真のあと、地球影が急速にせり上がり、あっという間に夜になってしまった。